



ハンナ・ポイント

南緯62度39分 西経60度37分 Livingston島南岸

主な特徴

- 高密度で存在する様々な野生動物：ゼンツーペンギン、ヒゲペンギン、および少数のマカロニペンギンの営巣；オオフルマカモメの営巣、ミナミゾウアザラシ
- 多彩な植生
- 地形的特徴



概要

地形

ハンナ・ポイント（以下「本ポイント」という。）は幅の狭い半島で、ナイフの刃の形状の尾根が波状にうねり、断崖は海拔30-50mの高さに垂直にそびえている。高地のスロープや尾根は、落石の痕跡である緩んだ小石状で、碧玉の鉱脈もある。火山灰に覆われた坂によって、本ポイントとWalker湾の平坦で開けた海岸が結ばれている。

動物相

繁殖が確認されている種：ヒゲペンギン (*Pygoscelis Antarctica*)、ゼンツーペンギン (*Pygoscelis papua*、分布拡大中)、マカロニペンギン (*Eudyptes chrysolophus*)、ズグロムナジロヒメウ (*Phalacrocorax atriceps*)、サヤハシチドリ (*Chionis alba*)、ミナミオオセグロカモメ (*Larus dominicanus*)、ナンキョクアジサシ (*Sterna vittata*)、アシナガウミツバメ (*Oceanites oceanicus*)、クロハラウミツバメ (*Fregetta tropica*)、マダラフルマカモメ (*Daption capense*)、ナンキョクオオトウゾクカモメ (*Catharacta spp.*)、オオフルマカモメ (*Macronectes giganteus*)。定期的上陸：ミナミゾウアザラシ (*Mirounga leonine*)、ウェッデルアザラシ (*Leptonychotes weddellii*)、ミナミオットセイ (*Arctocephalus gazella*)。

植生

植生が本ポイントの斜面上部を覆っている。ナンキョクコメススキ (*Deschampsia Antarctica*)、ナンキョクミドリナデシコ (*Colobanthus quitensis*)、オオロウソクゴケ属 (*Xanthoria, spp.*)、その他の固着性地衣類が生息している。緑藻類のナンキョクカワノリは広範囲に見られる。Walker湾ではコケ類が大繁殖している。

その他

化石や岩石標本が平坦で開けたWalker湾海岸帯の東端に見られる。

訪問者の影響

既知の影響

Walker湾の近くの軟らかい火山灰傾斜に一時的な道が形成され、本ポイント周辺には野生生物や訪問者によって踏み固められた道が見られる。1995年以降、干渉によりゾウアザラシがジャスパー・ダイク近くの崖上のぬた場から落下する2件の報告がある。

潜在的影響

本ポイントでは訪問者用地区に限られているため、植生と野生動物の攪乱と浸食が懸念される。

上陸要件

船舶*

乗客200名以下の船舶。1度に1隻の船舶に限る。本ポイント：スペースが限られているため、繁殖期の始め（10月）からペンギンの孵化初期（1月中旬）までの訪問は極力避けるべきである。それ以降は、1日（午前0時から翌午前0時まで）1隻の船舶まで。訪問は6時間以内とする。Walker湾：1日（午前0時から翌午前0時まで）2隻の船舶まで。

訪問者

探検ガイドとリーダーを除き、常に下船は1度に100名以内。本ポイントへは50名以内。訪問者20名あたりガイド1名。22時から4時（現地時間）の間は上陸できない。

訪問者用地区

上陸地区

第1候補（ハンナ・ポイント上陸地区）：ハンナ・ポイント北岸の小さな礫浜。
第2候補（Walker湾上陸地区）：条件が許すなら、本ポイント北側のWalker湾の平坦で開けた地区でも上陸可能。

閉鎖地区

閉鎖地区A：オオフルマカモメが繁殖する断崖地区。
閉鎖地区B：オオフルマカモメが営巣するごつごつした岩場と、50mの緩衝地帯。

ガイド付き徒歩地区

訪問者用スペースが限定されていることから、本ポイント周辺を歩行できるのは15~20人以内で、厳しく管理されたグループに限定される。十分な間隔を空けて、同じ道筋を歩行すること。本ポイントを歩行する訪問者は、指定された経路を一列になって通行し、野生動物や他の傷つきやすい物は避けること。

自由散策地区

訪問者は、監視付きでWalker湾の海岸を自由に散策してよい。ただし、閉鎖地区Bは除く。

*：ここでいう船舶とは、12人以上の乗客を運搬する船に限る。



ハンナ・ポイント

南緯62度39分 西経60度37分 Livingston島南岸

訪問者の行動規範

陸上での行動

訪問者は南極訪問者ガイドラインに従って行動すること。営巣中のオオフルマカモメと同じ高さ、あるいはさらに高い所にいる場合、十分に注意し、最低50mの安全距離を取るべきである。鳥の挙動に変化が見られたら、さらに距離を置くこと。

注意事項

ゼンツーペンギンのコロニーが拡大していると考えられており、繁殖期が進むにつれ、本ポイントと上陸海岸はかなり混雑する可能性がある。ハンナ・ポイント上陸地区は野生生物が多い場合には、上陸して必要な安全距離を保つ事は不可能である。2箇所の上陸地点はいずれもうねりが生じやすい。ジャスパー・ダイクは脆く崩壊しやすいので注意すること。崖の縁で野生生物に干渉しないよう細心の注意を払うこと。動物が干渉によって後退し、落ちる危険がある。

採択：2006年
最終改訂：2013年



上空からのハンナ・ポイント



ハンナ・ポイントの上陸用海岸



注意：野生動物の密度が高く、訪問者スペースは限られる

